

KISS



KISS



KISS

AN UDO ARTISTS, INC. PRESENTATION 1978 ROCKUPATION'78 第4弾

日本公演—JAPAN TOUR

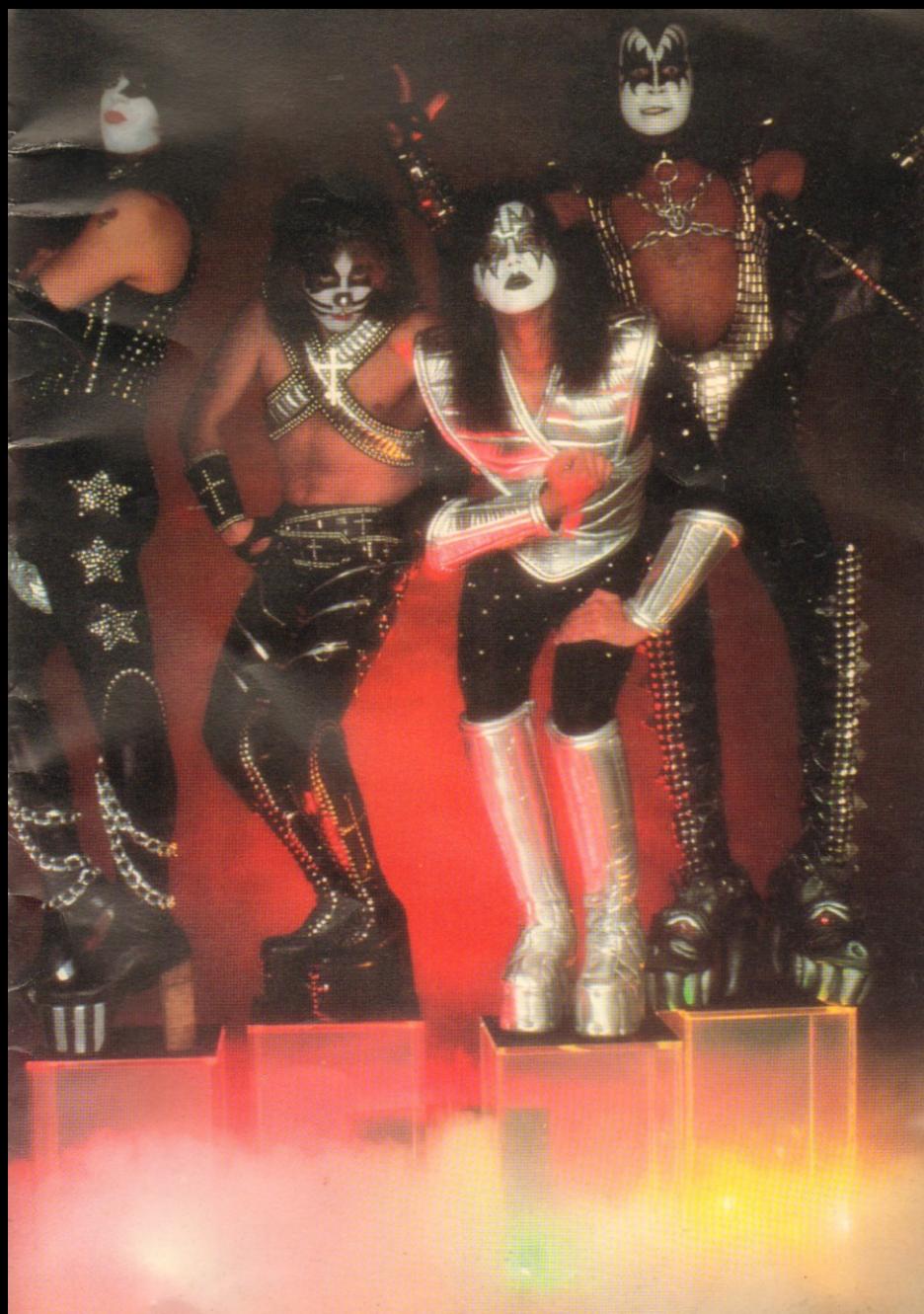


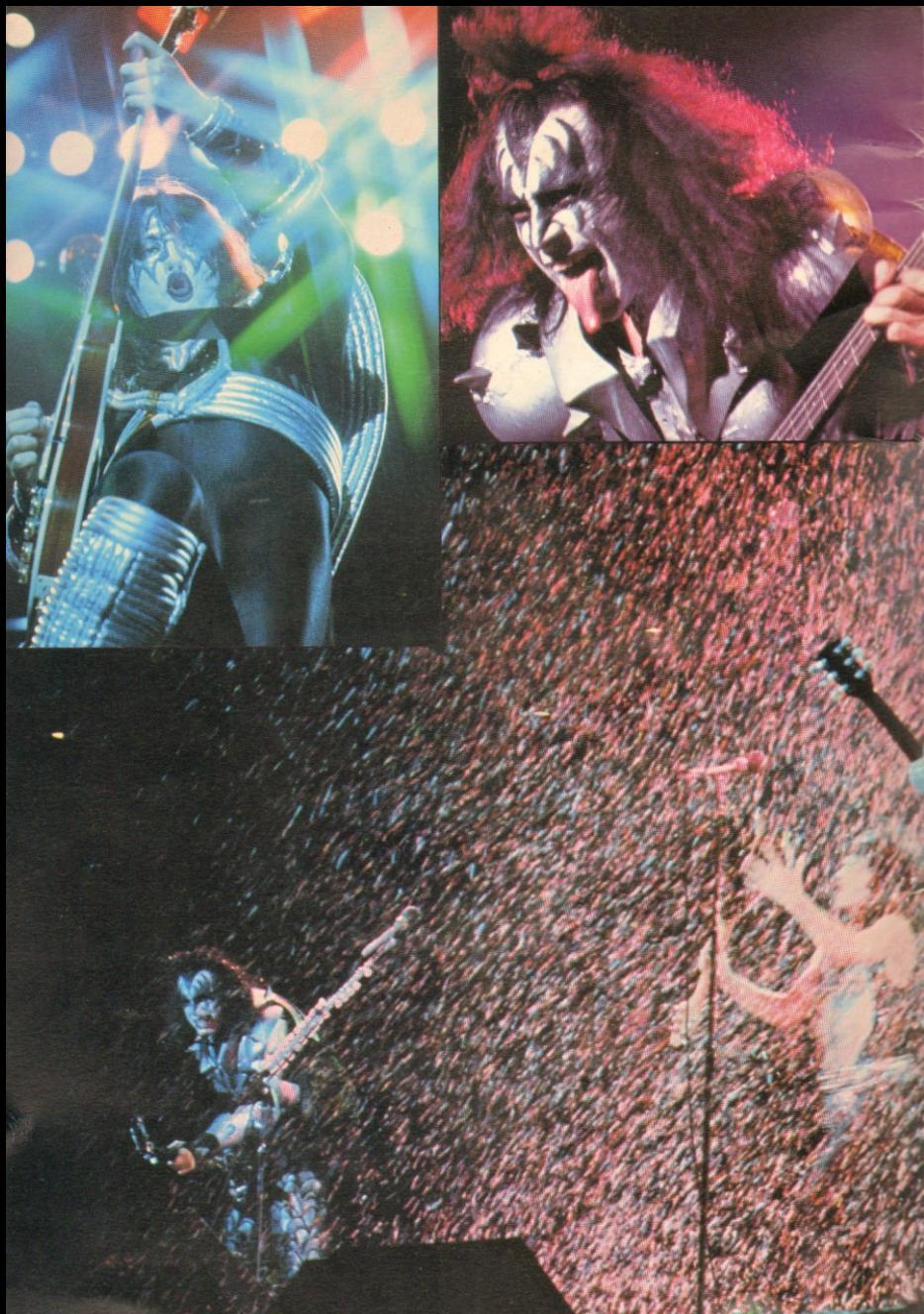
- 3月28日●東京●武道館大ホール●主催■文化放送／ウドー音楽事務所
3月29日●東京●武道館大ホール●主催■文化放送／ウドー音楽事務所
3月31日●東京●武道館大ホール●主催■文化放送／ウドー音楽事務所
4月1日●東京●武道館大ホール●主催■文化放送／ウドー音楽事務所
4月2日●東京●武道館大ホール●主催■文化放送／ウドー音楽事務所

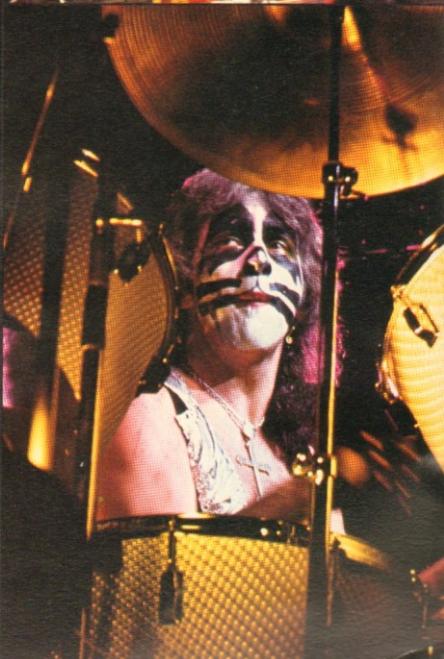
キッス

招聘■ウドー音楽事務所
後援■ピクター・レコード
協賛■マックス・ル・フレンティ

PHOTO by AMIYASHITA
DESIGN by NEW PHOTO STUDIO CO., LTD.
PRINTING by L.D.KIKAKU











キッス代表曲目紹介

テトロイト・ロック・シティ

オープニングにふさわしい曲だが、時たまアンコール・ナンバーに回したりする。現在のキッスの心境そのままを歌ったものだという、一郎の声を信じて歌詞を読むと、ファンなら誰でも背スジが寒くなる。このナンバーあたりから人気も本格的となり、自信もたっぷり、大きく成長したキッスの姿が、うかがえる。

(1976.9)

ラヴ・ガン

マイナ調のハード・ナンバー。日本人好みのする曲調だ。キッスは、どうもこの辺ところがよくわかりすぎていて、ファンには嬉しい限り。また、日本のさまようブリティッシュ・ハード狂の心情をしきりつがんで離さない、まさに「就世主キッス」でもある。アメリカからの噂によれば、この曲で何やら面白い仕掛けを見せるとか……。

(1977.10)



雷神

ジーン・シモンズの「火吹き」と並ぶ、もうひとつ特異芸「血吐き」は、この曲のイントロダクションでおこなわれる。ステージ中央にうずくまり、怪獣のように目をギラつかせ、あたりを見回す仕草は役者ジーンの見せ所でもあり、彼の太い声がリードを取るこの曲は、「血吐き雷神シモンズ」のひとり舞台とも言える。

(1976.4)



ハード・ロック・ウーマン

彼らが単なるロック・バンドでないことを証明するかのように、この曲では、キッスの別な才能が輝いている。12弦のアコースティック・ギターが奏でるイギリス臭いメロディーラインは、日本人の好みとところ。それが証拠に、去年の新刊日を目前にいたる所で発売の大ヒットとなった。リード・ヴォーカルはドラムのビーター・クリス。

(1977.1)

愛の謀略

キッスの曲は、ほとんどが愛を歌ったものである。ストレートにカツハードに表現されるキッスの愛は、いやらしくもなくめっぽくもない。サッパリした気持ちの良い愛情表現と言える。どんなワイヤーな台詞であっても、不思議に妙ないやらしさがない。キッスの愛の巧みなワザにかかることは、ほどく快い。

(1976.4)



ファイアーハウス

キッス『ライヴ』にはなくてはならないナンバー。彼ら唯一の売り物である、ジーン・シモンズの特異芸「火吹き」をご披露するための曲と言てもいい。スタジオ録音のレコードで聞くと、少々印象が薄いが、ライヴ盤になると数段の違いが出ていて、ステージでの迫力や妻夫木がそのまま伝わってくるほど。そして生のステージを見る時、イントロが始まる同時に、キミの身体にも火がつくのだ!

(1974.1)

クリスティーン・シックスティーン

ピアノのイントロが優しいキッスを思わせる。曲作りは、1950年代初期の感じだが、古さは全くない。ワン・テンポあいた後追いふうのコーラスが、いかにもキッスらしい。途中のしゃべりは、ジーン・シモンズ。この曲の味つけを徹底的にしゃレで決めている。

(1978.8)

ショック・ミー

リード・ギターのエース・フューレイに男性ファンが多いのは、彼が常に興味深いシンセティックでギターをあやつっているからかもしれない。先に話題になった「ラジオ・コントロール式ギター」に寄せるファンの期待は大きい。そして、今までの「ゴールド・シン」に変わって、今後のエースの独壇場はこの曲になるらしい。

(1977.6)

トゥモロー・アンド・ナイト

去年の来日公演では、アルバム「地獄のロック・ファイア」が中心だった。今年はおそらく「ラヴ・ガン」・「アライブII」の新曲あたりが新たに演奏されると思われる。この曲は「ラヴ・ガン」からの曲で、あまり歌った所がない楽曲なメロディーだが「トゥモロー・アンド・ナイト」の繰り返しのフレーズが、あとあとまで耳に残る。

(1977.11)

ロックン・イン・ザ・USA

これは「テロイト・ロック・シティ」となら、キッスの心待ちを歌ったナンバーなのだろうか。747ジャンボ機に乗り、ヨーロッパ各地をツアードした印象を言いながら、「アメリカでロックン・ロールするのが最高よ！俺たちや、アメリカ以外にロックン・ロールすることなし！」という興奮に。

(1977.11)

ラージャー・サン・ライフ

キッス、というよりはジーン・シモンズらしいミディアム・テンポのお得意ナンバー。ジーンにおける愛の戦術法は、ボールのそれとやや違ってるようだ。ボールがキザなセリフと甘いハードなら、ジーンは率直な愛のことを繰り返しながら迫る戦術法らしい。あくまでもこれは、キッスの歌詞における話。

(1977.11)

ロケット・ライド

「キッス・アライブII」から「狂気の nibi」に続いているシングル・カットされた曲。ジェット・マシンと特殊なフックス音を効かしたギターが、今までのサウンドと少々違ったムードを出している。メカカル好むエース・フューレイならではの自信作。リード・ヴォーカルも彼自身である。キッスは4人共、歌が歌えるという最大の長所を持つ強いバンドだ。

(1977.11)

狂気の叫び

躍しいチューニングのアントロで、一撃、ギターがフラットしてるように聴こえる。「ロックン・ロール・オールナイト」に匹敵する迫力満点の軽快なアンプ・テンポ・ナンバー。キッスのもっと特異とする曲であり、シングルでも大ヒットした。

(1976.5)

ロックン・ロール・オールナイト

キッス・ライヴは一種のパーティでもあるようだ。みんな、今夜は一晩中パーティだぜ。そうさ、毎日徹夜パーティだ。ステージではラスト・ナンバーに使われるが、終りのないキッシン・パーティが最高潮になる時だ。『ブラック・ダイアモンド』同様、ライヴでは必ず演奏している。

(1975.3)

ブラック・ダイアモンド

最高傑作の轟烈高きヒット・ナンバーであり、キッス、ファン最愛のナンバーのひとつである。彼らが最も影響を受けたというレッド・ツェッペリンの「天国への階段」を彷彿とさせる。本国アメリカではほとんど野外で演奏するが、エンターテイningになると花火が焰火も打ち上げられる。日本でそれが見られないのが残念でたまらない。

(1974.10)

ジーン・シモンズ

(ベース・ギター、ヴォーカル)



GENE SIMMONS

ポール・スタンレイ

(リズム・ギター、ヴォーカル)



PAUL STANLEY

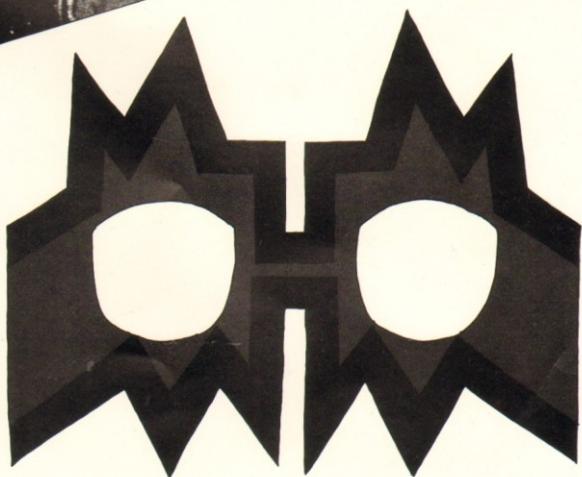
ピーター・クリス

(ピート・クリス、ヴォーカル)



PETER CRIS

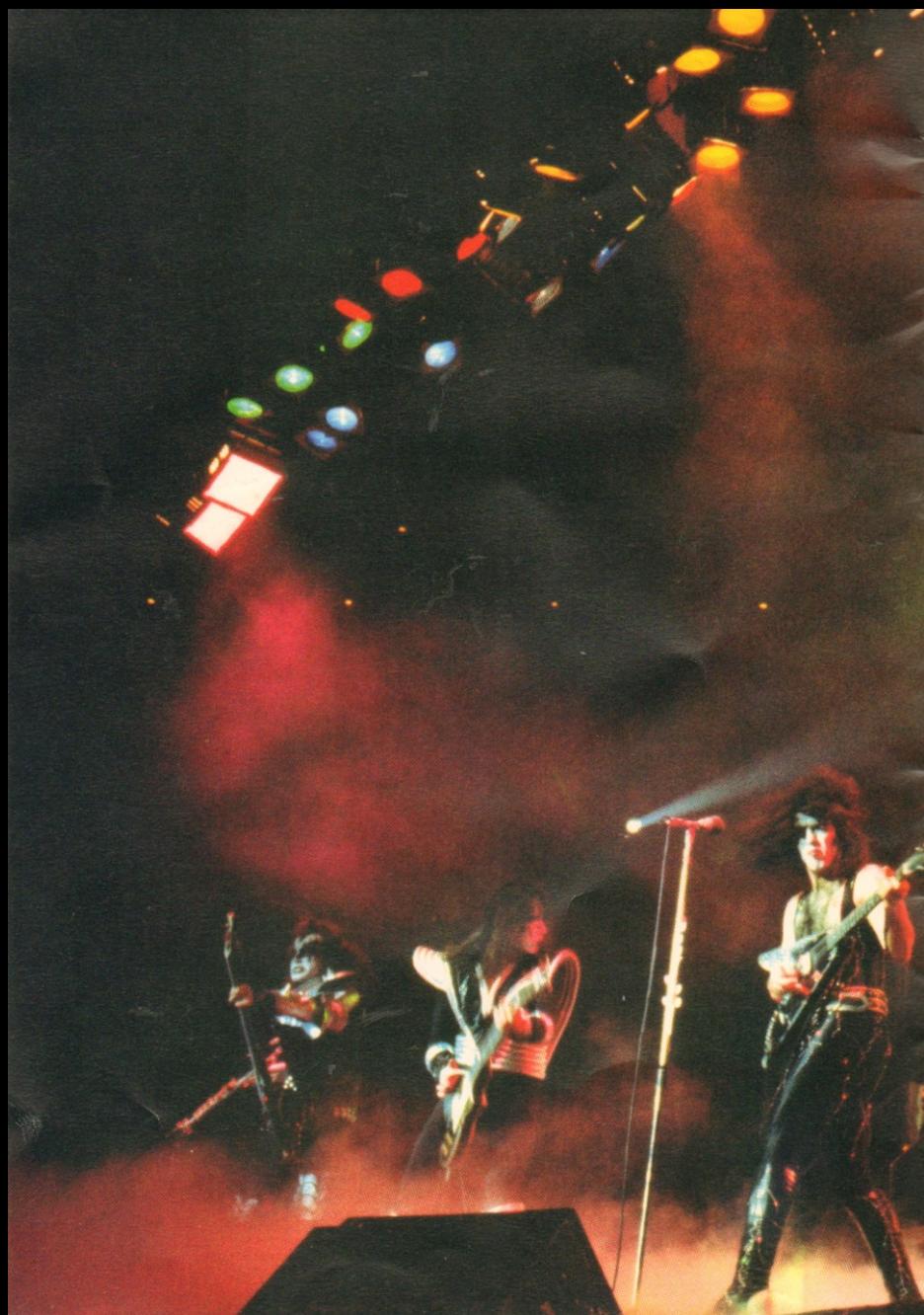
エース・フレーリー (コード・ギター、ヴォーカル)



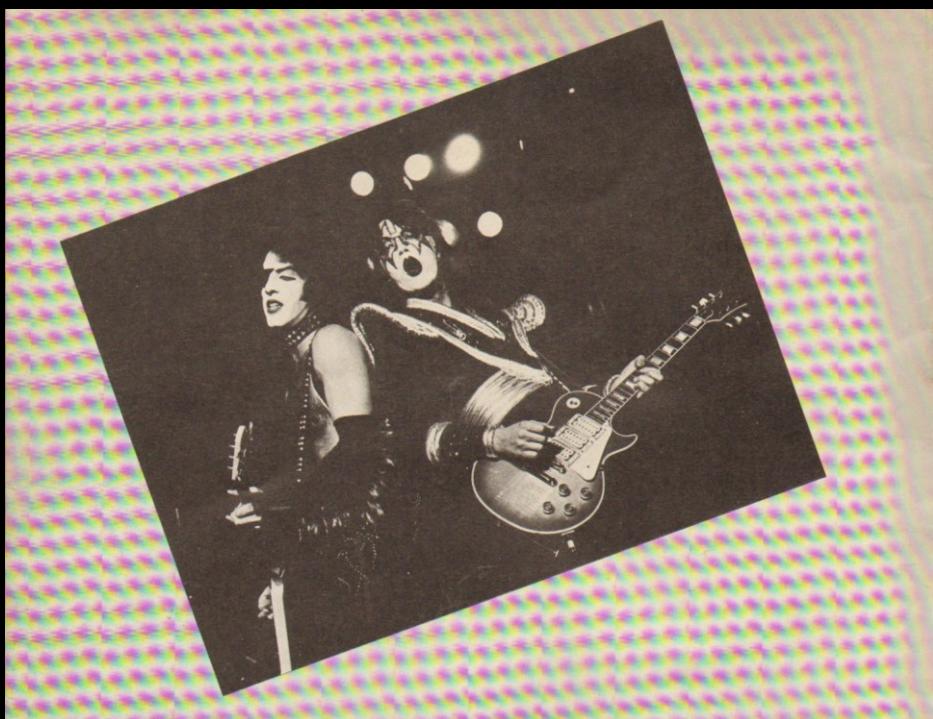
ACE FREHLEY

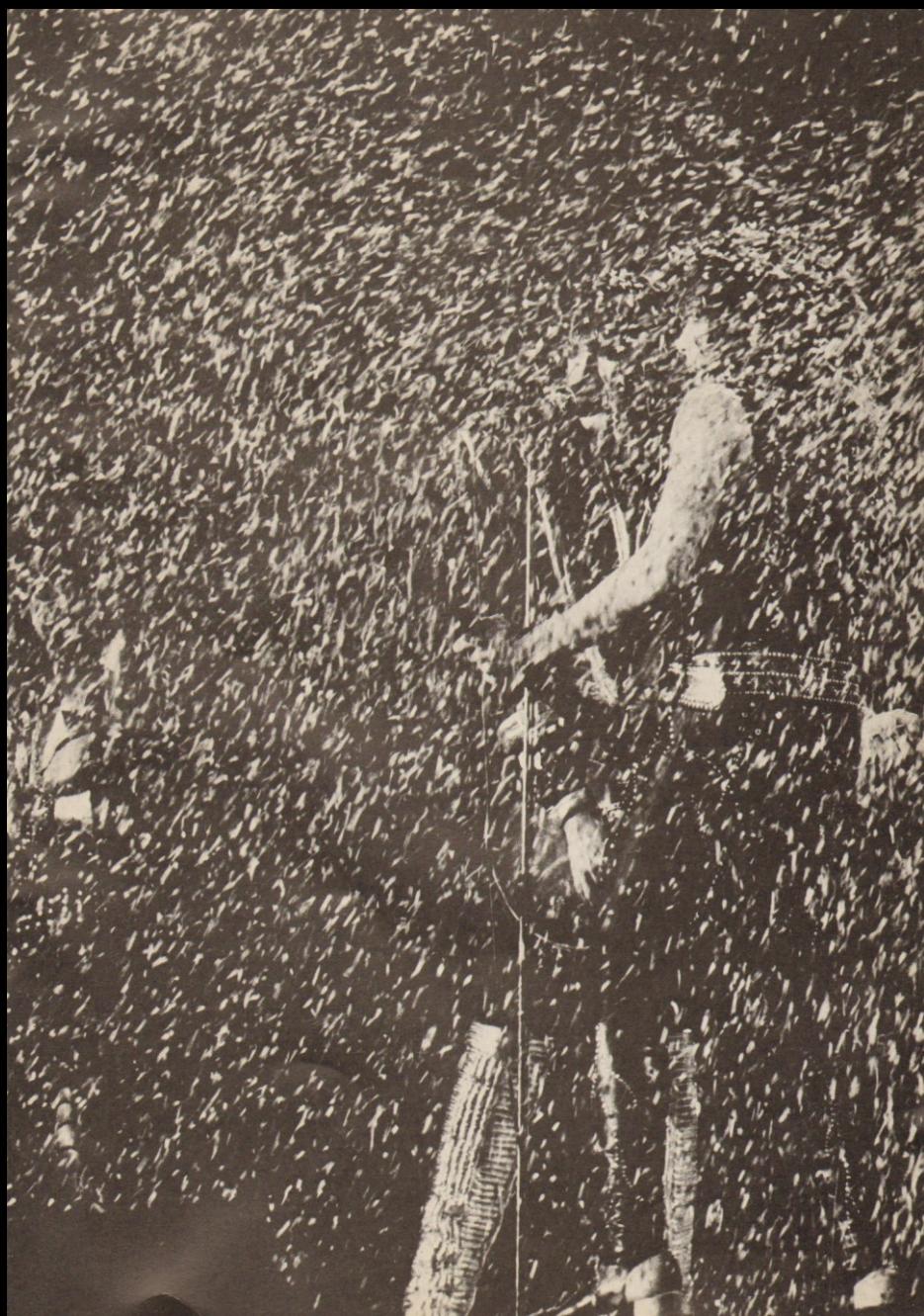










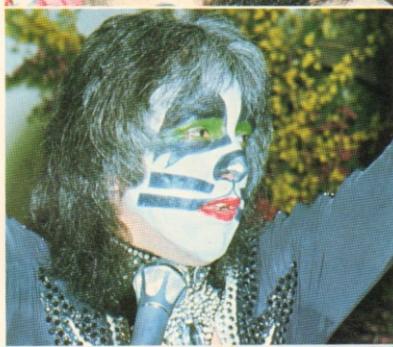
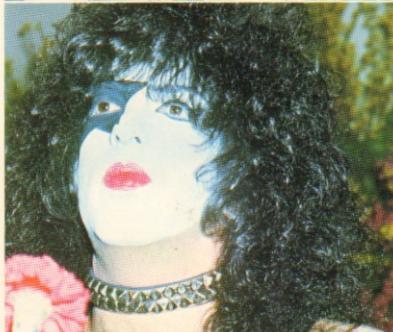




KI









宇宙とロックの大ステージ キッス2度目の来日!

ミュージック・ライフル編集長
水上はるこ

キッスが2度目の来日をはたす。時も同じ桜の季節だ。1977年、私たちは千代田公園の桜並木をくぐつて、キッスに会いに行つた。武道館の階間に、私の、あなたのアイドルが浮かびあがつた時、目もくらむようなせん光が舞台の左右から放たれた時、キッスが本当に日本にいるんだ、ここにいるんだという実感に胸がいっぱいになつた。日本にいる間中、キッスのメンバーたちはサンープラスをかけなければ外出は禁止、というマネージャーの厳重なお達しにもかかわらず、夜が明けてこつそりティスコティックに出かけたり、町のおみやげやさんとにびこんだりしていた。そこに私たちが見たのは「仮面のロック・ミュージシャン・キッス」ではなく、陽気なアメリカの若者、ジーン、ポール、ビーター、エースだった。

それから、キッカリ一年の月日が流れだが、キッスは約そくどり、同じ武道館にもどつてきた。

私は、日本公演以後のキッスのコンサートはみていないが、雑誌用のインタビューなどで彼らと電話で話す機会が何度かあった。日本公演のすぐあとに、おなじみのコスチュームをモデル・エンジニア、アフセサリーヤーバーに至るまで、すべて新らしくした。それと同時に、ステージングも新しい手法が加えられ、たとえばストロボ、ライト、スマーフ、炎など、どれをとっても昨年以上の工夫と仕掛けがこなされているといふ。

更に、これはロック・ファンならずで何度も耳にしたことがあると思うが、「ラジオ・コントロール・ギター」(つまり、ギターのコードがなくてちゃんとアンプから音が出るシステム)の採用によって、コードの心配なくステージを動きまわれるようになった。ステージ・アクションの楽しさも売りものにしているキッスのステージが、ラジオ・コントロール・ギターの開発でいかに進歩したか、エースはこういっている。

「ラジオ・コントロール・ギターを使ははじめ、ステージがもっとエキサイティングなものになったよ。コードに足をひっかけてあやうくころびそうになつたりすることがないから、僕らのような複雑なステージをやるバンドには救いの神だね。それにもうひとつ、あの恐ろしい電気事故もおこらないし。」

しかし、このラジオ・コントロール・ギターに関しては、世界中の大人気ロック・ギタリストの間で賛否両論をまきおこしていて、リッチャー・ブラックモアは「あんなのは邪道だ。

本当のギターの音はあんなものじゃない」といっているし、またELOのジェフ・リンは、「ラジオ・コントロール・ギターは僕らのステージの可能性を大にした」ともいつている。

ともかく、ステージに出てきたキッスをみて、あれ、コードがないぞ、音はテープじゃないのか、などと決していいないように。

もうひとつおもしろいのは、ジーン自身がデザインしたという、ヘビの像。そこから火が吹き上がるという仕組みになっている。ヘビやサソリが好きなジーンの好みらしい。

そんな風に、再来日への興味は尽きないが、ロックン・ロールの王者としてのキッスは、アメリカでは依然、ナンバー・ワンの人気を保つてあり、昨年12月には、マジソン・スクエア・ガーテンを3日間、超満員にするという、記録的なコンサートを行なっている。その時のパターンに、更に日本向けのアイディアを加えたものが、こんどは武道館コンサートになりそうだ。

1978年はSFの年といわれ、「未知との遭遇」「スター・ウォーズ」などの映画と共にSFに関する話題が多いが、キッスはそのSFとロックを初めて、ステージでドッキングさせたグループだ。「宇宙的なこと」を演出するグループは多いが、自分がまるで宇宙からの使者になったつもりでコンサートをやつたのは、ティヴィッド・ボウイとこのキッスくらいなものだろう。それだけに、メンバー自身のSFに対する造詣もかなりのもので、日本の怪獣映画に小さい時夢中だったというのは有名な話だ。今度きた時は、「スター・ウォーズ」の話なんかもできるかも知れない。

キッスは日本公演が終ったあと、かねてからの念願であったソロ・アルバムのレコーディングにはいるという。ポール、ジーンはもちろんギタリスト=ウォーカリストとして、その作詞、作曲の腕も認められている。まだビーターは「ベース」「ハード・ロック・ウーマン」などで渋いのどをきかせているし、エースのギタリストとしての実力は何をかいわんやである。きっと新しいニュースも、日本でさけることだろう。来年の春も、さ来年の春も、新しいコスチュームで日本中をひっかきまわしてほしい。宇宙からのロックン・ローラー、キッスがまた今年もやってくる。



「キッス」における「未知との遭遇」

ヤング・ミュージック・ショー
波田野 総一郎

また桜の季節がやってきた。桜の花に誘われるように再び「キッス」がやってきた。「キッス」と「桜」と並べると必ず思い出すことがある。昨年の4月1日、東京は武道館のある桜の名所として知られる千鳥ヶ淵で折から花見の酒盛りをしていた人たちの間に巻き起ったパニックのことだ。ある酔っぱらいの証言に曰く、「なんか俺だけが悪い夢でも見てるのかと思つたが、夕闇せまるお豪華な顔を真白に塗つた子供が、次から次へとこっちへやつて来るじゃないか。大人なら花見の余興の仮装ということもあるけど、なんで子供が、申し合せみたいにオシロイぬけて目のまわりに星のマークを書いて歩いてんの?」「キッス」のことなど聞いたこともない酔っぱらいの人たちがいっぺんに酔いが覚めたのも無理からぬこと。彼等はまさにその時、顔に化粧してコンサートを見にゆく子供たちに会うという「未知との遭遇」を体験していたのだから。

ほくにとつてもあの桜の季節は大袈裟でなくひとつの「未知との遭遇」だった。ほくはその年の正月頃から、これまでアメリカでもライブ番組に出演したことのない「キッス」をなんとかして「ヤング・ミュージック・ショー」に出そうとして奔走していた。「キッス」は最もテレビのなロック・バンドなのにどうしてこれまでテレビ出演をしたがらなかつたのか。その理由はどうやら彼等の完全主義にあるらしいことが分かった。彼等のプロデューサーがアメリカ三大ネット局のひとつディレクターだったこともあって、テレビの機能を知りつくり、彼等のショーを最大限効果的に演出できる条件が備わらない限りテレビには絶対に出演しないということだった。その条件というのは「キッス」の火芸とでも言うべきショーを完全にとらえるために普通の中継に使われるテレビカメラの2倍の台数を使うこと、最良の音質を得るために、レコーディングと同様16チャンネルの録音システムを使うこと。その録音テープが映像とシンクロするようにVTRに特別の信号を打つこと。等々……。いずれもこれまでのロックのライブを中継するときの技術的な標準をはるかに上まわる条件ばかりだった。幸いにもその条件が満たされて、当日は無事に収録することが出来たのだが、ミス・ショットを防ぐために同じ日の公演を悬念して二回収録したところ、驚いたことにあとでその両方を同時に試写してみると、星の演奏と夜の演奏と1曲につきほとんど1秒もちがわない正確

なテンポで演奏されていた。今だから告白すると、あのテレビ番組は夜の演奏を中継したことになっているけれど、本当は星のライブの場面が相当まぎれこんでいるのが事実で、もしそれを見分けられた人がいたら、心から脱帽いたします——。さてサーカスのように楽しいロックを茶の間にとどけるというほくの目的は達せられたのですが（もっともジョン・シモンズのアップを夕食時に放送するの問題だという意見が強くて、番組は夕食の時間を外して放送された）長い間ピンク・レディや百恵ちゃんの歌謡番組を見慣れてきた茶の間のテレビファンには「キッス」の生々しいライブはまさに「未知との遭遇」だったらしく、「天下の〇〇〇ともあろうものが何を血迷つたのか!」とか「ついに〇〇〇も発狂したか!」などかなりドギツイ抗議が殺到した。

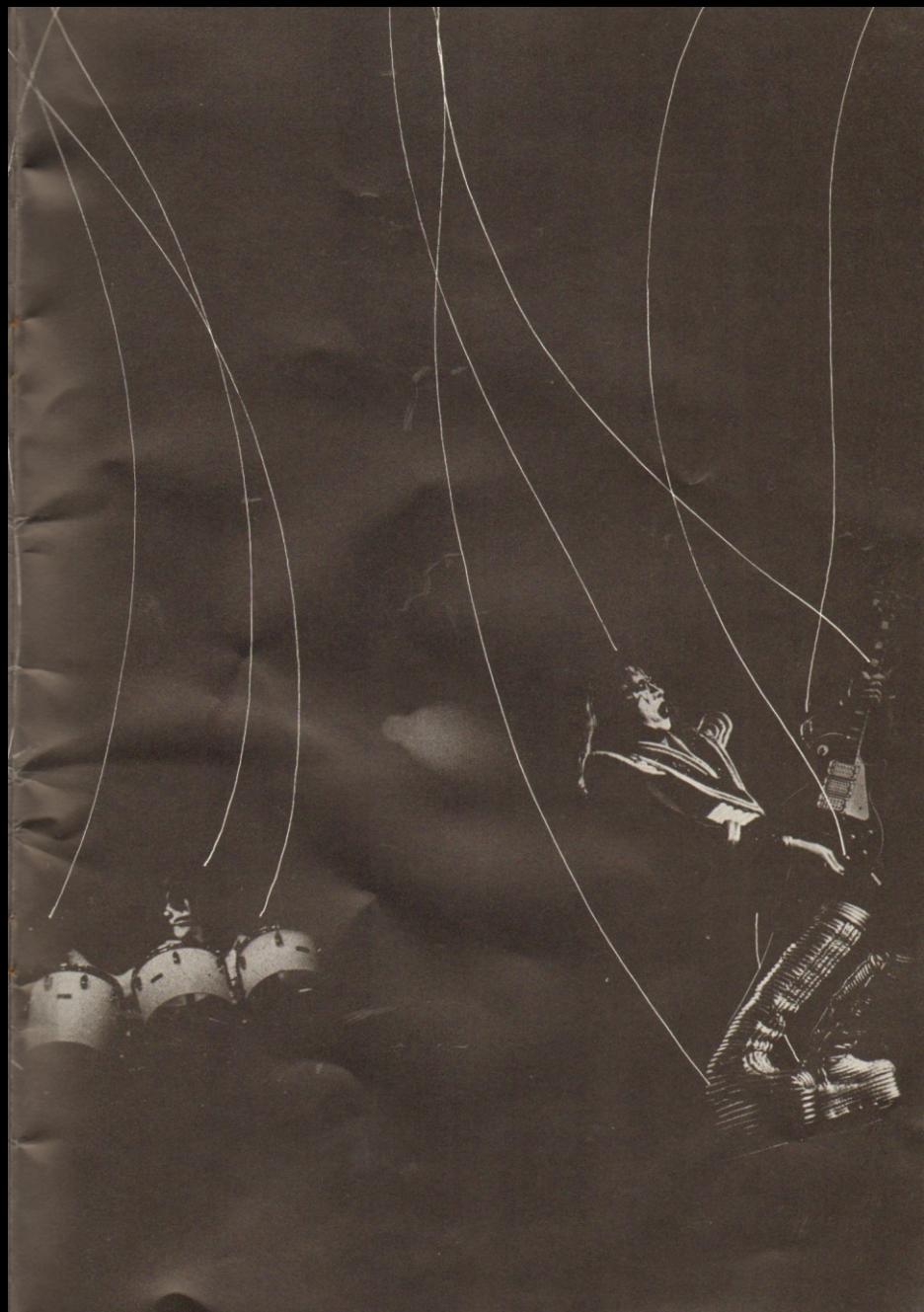
それにしても「キッス」の視聴率はふだんの「ヤング・ミュージック・ショー」の約10倍近く、「ペイ・シティ・ローラーズ」の2倍以上もあつたのも驚きだった。

さて今年も春の風に吹かれてやってきた「キッス」。今年の楽しみはある限界ぎりぎりまで拡大されたサウンドもさることながら、今度はどんな仕掛けを見せてくれるかということにある。大仕掛けやケレンを見せるショーやいうものには、前と同じ仕掛けを見せてもらひます。親客はいっこうに喜ばずかえって白けてしまうという宿命がつきまと。『キッス』が小気味良いのはこの宿命に敢然と挑戦していることだ。あえてエスカレートの道をいとわず、エスカレートにつぐエスカレート。自らの信じるケレンと大仕掛けの道を突き進むこと。この後戻りのきかない道を「キッス」は選んだ。

ついにケレンの種がつきて新しいアイディアを考えつくことができず、親客に「未知との遭遇」を体験させられなかつた時にはいさぎよくメンバー全員が化粧を落として、素顔で最後の曲を演奏して姿を消してゆくにちがいない。その日が来るまで「音で勝負しないで見世物で勝負するバンド」などという雑音にまどわされず、とことんケレンの道を追求し、ファンに新たな「未知との遭遇」を体験させてほしいものだ。

今年もようど花見時、あの千鳥ヶ淵あたり一杯機嫌になっている花見客たちは、満開の桜の下で今年はどんな「未知との遭遇」を体験したことやら…………







コンサート 映画・展覧会 ・スポーツ

入場券のお求めはお近くの
東京都プレイガイド協会

加盟店一覧表

(方面)	(協会会員店舗)	(電話)	(定休日)
銀座	○プレイガイド本店 ○鳩居堂 ブレイガイド 赤木屋ブレイガイド 交通会館チケットビューロー	(銀座二丁目) (地下鉄銀座(A-7)出口前) (松屋B2階) (銀座三越二階)	(五六一) 五〇一 (五七一) ○四〇一 (五六七) 一二一 (五六一) 一一一 (三九〇) 日祝日
丸の内	○後楽園サービスセンター ○国際観光ブレイサービス ○東京駅ブレイ ○赤木屋ブレイガイド	(八重洲北口) (八重洲北口) (東京駅地下名店街) (日本橋角)	(一一五) 一一八一 (一一一) ○六六〇 (二七三) 五四八一 (二四一) 三三一 日曜日 無休
日本橋	赤木屋ブレイガイド	(三越本店六階)	日曜日
上野	○松坂屋チケットビューロー ○ABABブレイガイド	(中二階) (アフターブティック)	(八三三) 一〇一 (八三三) 三一 水曜日 火曜日
池袋	赤木屋ブレイガイド	(西武百貨店八階)	(九八一) ○一一 木曜日
新宿	東武チケットビューロー(東武百貨店二階) ブレイガイド	(九八四) 一六九一 (伊勢丹六階)	水曜日 日曜日
浜松町	新宿駅ビルチケットビューロー 赤木屋ブレイガイド モノレール駅チケットビューロー(二階)	(三五二) 一一一 (三五二) 一五二 水曜日 木曜日 水曜日 木曜日 日祝日	水曜日 無休 木曜日 木曜日 日祝日

○印は本店又は本館、他は支店



土曜の夜はロック!!

ROCK'N ROLL IS JOQR

海外アーチストの日本公演から日本のロックまで
ステージ録音を中心に

「ROCKUPATION'77 スペシャル」

土曜・深夜1:30~2:30

JOQR 1130kHz
文化放送

D.J 大森庸雄

Victor
RECORDS & TAPES

昨春の「地獄の全貌」に続く大企画。
3大最新作と2大豪華特典をモノにしろ！

続・地獄の全貌 キッス

◎VIP-5504-6(3枚組)+2大豪華特典つき ¥4,500●絶賛発売中



3

◆キッス特別版面
ホールド・ザ・ヘッド・ハイ・モード・モード・モード

今夜も燃えるぜキッス地獄…

血もたぎる'77年全米ツアーのライブ盤。

キッス・アライブII

◎VIP-5525-35 ◆VWC-4503 各4,500●絶賛発売中



■「地獄のストーリー/キッス・ライブ」とは(曲目リスト)。しかも新曲もばっかり!

SIDE-A: ディロト・ロック・ライヴ、地獄の夜、熱血メドレー、ルーム・ムーンなど8曲。

■「ライガ」、SIDE-B: 黒魔ドクター・ライヴ(クライマックス・フレーズ)、シーシャ・ライヴ・ショック(ハイハード・ライヴ)、ワープ・トヨモト・トナリ・ SIDE-C: 魔の歌、魔の歌、魔の歌。

■「魔」、ハイサウンド・ライヴ(内巻)、SIDE-D: オーラ・オーラ・ガラ・ワ・ロッキン・ライヴ、USA・ワーナー・ラーヴィ・ロード・ライド・エイジ・ワゴン・ワゴン・ワゴン・ワゴン

■「狂気の叫び」(ライヴ)、ライヴ・ナイト・シルバーラズ、ライヴ・エクス・ショック

がんばれヒット



■「地獄のストーリー/キッス Vol.1」(1974-75)

■「地獄への使者★地獄のさひげ」(VIP-550-6)(2枚組)¥4,000

■「地獄のストーリー/キッス Vol.2」(1975-76)

■「地獄への使者★地獄の団体」(VWC-307-8)(2枚組)¥4,000

■「地獄のストーリー/キッス Vol.3」(1976-77)

■「地獄のロック・ライブ★キッス・ブック」(VWC-509-10)(2枚組)¥4,000

カセットだけの豪華特典

●「狂気の叫び」(ライヴ)

●特製キッス・オベラグラス

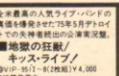
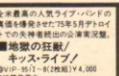
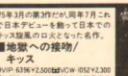
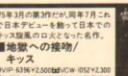
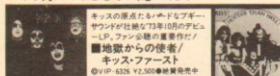
今年はカセットファンにも大サービス。
全6枚のオリジナルLPを3巻に収集大作!

地獄のストーリー/キッス

〔全3巻・各巻2本1組 ¥4,000〕 来日記念・完全限定版
絶賛発売中

地獄部屋のラジカセでもここに聴こうといふ
カセット版にはビッグニュースだ。キッスの全貌を明らかにする全6枚のオリジナルLP
もデーター順に並べ、2枚1組のカセットに収録。それに、カセットだけの豪華特典、
特製キッス・オベラグラスもついて巻番4,000円。やっぱり、この機会を逃せないモノ

みんな持ってると思うが、念のため…





KISS

AN UDO ARTISTS, INC.
PRESENTATION 1978

